



夢★きらめいて

No. 5

加東市教育委員会/加東市人権・同和教育研究協議会 平成20年3月1日



兵庫教育大学留学生による
「フィリピンの踊りとインドネシアの歌」

目次

- 住民学習の感想…………… 2・3
- 心あったかいフォーラム…………… 8
- おおくぼまちづくり館・
水平社博物館を訪ねて…………… 4
- 人権と福祉のまちづくりフェスティバル… 9～11
- 人権のひろば・新作ビデオ紹介…………… 5
- 男女共同参画…………… 12・13
- 加東市民人権講座修了者…………… 6
- 中学生の人権作文…………… 14～17
- 人権を考える市民のつどい…………… 7
- 人権トピックス…………… 18

民族衣装での愛らしい踊りと哀愁漂う歌のステージに、参加者のみなさんから大きな拍手が送られました。

オープニングは、兵庫教育大学留学生アデリナさん、ロセルさんによるフィリピンの踊りとティティクさんによるインドネシアの歌でした。

朝から、雪の舞う寒い日でしたが、約二六〇名の参加がありました。

一月二十日、社福祉センターで、「人権を考える市民のつどい」を開催しました。

世界の国から
こんにちは
多文化共生交流ステージ



まなび愛 わから愛 〜地区住民学習会の感想

本年度に実施していただいた地区住民学習報告書より、参加者や社会教育推進委員のみなさんの感想の一部をご紹介します。

「啓発ビデオ「夕映えのみち」

を使った学習から」

- 仲のよかったあかりと沙希は元通りの親友になれるのでしょうか。多感な年頃の子どもの心には致命的な傷を残したのではないのでしょうか。許せることと許せないことがある。家のことや、家族のこととかは、なかなか割り切れるものではない。
- 今後、あかりさんと沙希さんや、また両家がどうなっていくのでしょうか。考えさせる終わり方であった。
- 映画のラストは仲直りしきって

いない。一度傷ついた心は簡単には回復しない。あかりは取り返しの付かないことをしてしまった。うわさをもとに人を見るのはよくない。

- 自分の方が上だと思っていたのに受賞したのは友人。プライドを傷つけられ、素直に喜んであげられず、「ねたみ」の心からやってしまった。
- 今の子は、あんな関係が友達といるのかなあ。本当に親友だったら喜んでやれると思うけど。
- あかりの方が絵は上手いが、沙希には父との思い出や、今のつらさ、これからの希望など、心が絵にこもっていた。だから認められたと思う。
- 親友といいながら、二人はただの友達だった。沙希はあかりに

お父さんのことを話していない。賞をとったときも、朝から分かっていながらあかりに伝えていない。だから、あかりの気持ちがあけいにイライラした。だけど、この事件をきっかけに互いの気持ちの奥が分かったので、仲良くなつてほしいし、きっと親友になれると思う。

- 「共に悲しむことはできても、共に喜ぶことは難しい」という父親の言葉が印象に残った。その通りだと思う。自分と利害関係の無いことで「共に喜ぶ」とはなかなかできないと思う。また、共に悲しむことも難しい。テレビの悲惨な事件や事故のニュースを興味本位で観ている人は多いと思う。
- 母と父、共に子どもを守りたいという気持ちは痛いほどわかる。母は、自己防衛に走り問題から逃げようとするが、先々重荷を背負うことになる。父の判断は冷静に子どもの過ちを正したい

という気持ちで、正しいと思う。子どもが過ちを犯した時の親の適切な対応が良い。学校・地域を巻き込んで課題を解決したことは大いに評価できる。自分自身の親としてのあり方を反省している。

- ビデオと同じように、子どもの優れている部分を親としてねたむ気持ちがあった。共に喜び、悲しむ親子の絆は大切。反省している。
- 大石家の両親のような親が現在社会の中にどれだけいるか。子どもと同じように考え行動する現在の親たちに聞きたい。

夫婦は二つの気持ちで揺れた（生身の人間）が、最後はモラルを守った。夫婦がきちんと話し合えて、結果が問題解決に向かう糸口になった。



- ネット社会の明と暗が浮き彫りになった。暗の部分について知らないことが多く、ニュースなどで取り上げられた時に知ることとなる。(学校裏サイト、ヤミの職安、犯罪サイト、神戸市立高校いじめ事件等)
- 現在、ネットでは不可能なことがないくらい、どんな悪いことでもできるようになっていいる。爆弾の作り方や殺人まで・・・。人として理性を持つて生きていかなければいけないと思った。
- インターネットの掲示板は誰でも書き込め、匿名であることから無責任な誹謗・中傷を書き込んでしまう。書き込む側の人権意識が必要であり、使っているのは人間で、見る者も人間だという気持ちが必要。
- 電子メディアでは心は育たない。生き方に一定の方向性を示せない。大人の社会のゆらぎ(大人のモデル)は、共生の価値観の欠如、窮屈な現実からの逃げを招いている。
- インターネットは情報伝達には便利だが、感情の伝達に使うと誤解を生じ、トラブルになりやすいと思う。やはり、言いにくいことは直接会うか電話で伝えるべきだと思う。
- 「透明人間になれたら何をするか」という問いに、「普段できないことをする」という場面で、姿が見えないから実際やってしまおうという怖さ。インターネットも、分からないことを調べたりするには便利だけど、使い方が次第では怖くなってしまふ。おもしろがっている人が多くなってきたのではないだろうか。
- 現在ネット社会といわれている。仕事などで利用するのは、安く速く大変便利であるが、一歩間違えれば深刻な人権侵害につながる。恐ろしいことである。



本年度の地区学習を振り返る

本年度は、人権学習とふれあいの交流の二回以上の地区住民学習会の実施をお願いしたところ、九割以上の地区において、実施をしていただきました。学習を中心になって進めていただきました社会教育推進委員、また、学習会を支援していただきました区長様をはじめ、地区役員の方々には大変お世話になりました。

何度も滝野庁舎の事務局にお越しくくださった方や、丁寧な報告書を提出していただいた方、本当に頭の下がる思いです。また、プロジェクト等の貸出しにつきまして、不備な点があり、ご迷惑をおかけいたしましたことを、お詫びいたします。

皆様にご報告いただきました内容は、本当にこれから加東市がめざす「人権尊重のまちづくり」の糧になるものばかりです。

マンネリ化しつつあるビデオ学習についても、わが身に置き換え、家庭・地域・子ども・社会などについて、地区内で話し合っていたいただいたことに深く感謝しております。このような学習会が、地域ネットワークづくりの一端を担っていくのではないかと考えております。

人権文化構築のための土壌づくりは、まだまだ始まったばかりと考えています。

これからも皆様のご協力とご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

加東市人権・同和教育研究協議会
事務局 一同



人権文化創造活動支援事業

参加者の声から

「おおくぼまちづくり館」と 「水平社博物館」を訪ねて

東条中学校 教諭 火置 和子

12月1日に学級生やその保護者と一緒に人権学習のために奈良へ出かけました。

おおくぼまちづくり館では、天皇陵を造るために強制的に移転させられた村の話を聴かせていただきました。

水平社博物館では、西光万吉さんをはじめとする村の青年たちが、人間の解放をめざして自ら行動を起こし、水平社宣言を発表するまでの歴史を学習することができました。

生徒たちにとっては、少し難しいところもありましたが、熱心に話を聴いたり、資料を見たりして、自分と重ね合わせて考えていました。差別の実態と差別に立ち向かう人々の強さや団結にふれ、自分の生き方について考えることができました。

■「おおくぼまちづくり館」とは…

奈良県橿原市大久保地区においては、1917年～1920年にかけて国の方針などにより洞村からの全村移転でまちづくりをおこなった歴史があります。「おおくぼまちづくり館」は、歴史を踏まえながら、まちづくりの歩みを学び、人権学習をするため、またコミュニティの場として設置されています。



〈おおくぼまちづくり館〉



〈水平社博物館〉

■「水平社博物館」とは…

水平社発祥の地、奈良県御所市柏原にあります。館内には、水平社設立までの歴史と、水平社宣言についての展示があります。

ポエムの窓

ぼくだってそこにある

葉っぱだって

石ころだって

そこにあるだけで

心を動かす力がある。

それが“ある”という

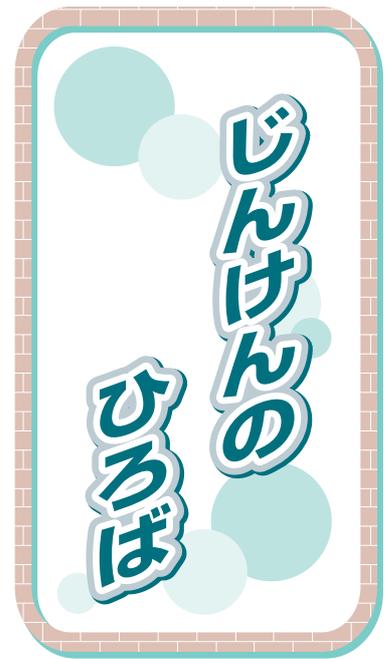
ことなんかな

僕だってそこに“ある”

“ある”ものはみんな

大切なんや

金の星社
『原田大助詩集』
土の中には見えない
けれどもいつばい種がある」より



本年度も各種団体において、人権学習を積極的に実施していただきました。

特に、加東市老人クラブ連合会の皆さまには、各地域別に、あるいはブロックごとに分かれ、人権啓発ビデオ「風と大地と梨の木と〜老いのいき先」の視聴で学習していただきました。

参加された皆さんが、身近な課題ととらえ、とても熱心に視聴されていたのが印象的でした。

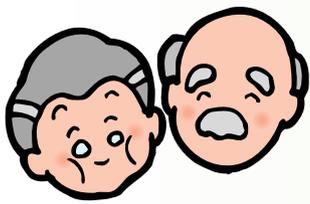
老夫婦におこった事件から、お互いの存在を見つめ直したり、今まで夫に従ってきた妻の生き方や、これからは、「自分らしく夫と共に生きたい」と考える妻の姿を通して、さまざまな思いを抱いて帰られた様子でした。

〈参加者の方からの感想〉

●ビデオ「風と大地と梨の木と」を鑑賞してから、自分自身を顧みて、あちこちからいろいろな意見で話が弾んで、大変よい交流学习ができました。今後、このような高齢化社会の中で、私たちはどうすればよいかを皆さまと一緒に勉強していきたいと思いました。

●ビデオでは、男はワンマンで自分勝手なことばかり言っていました。年をとるにつれて、話し合いをして仲良くしていきたいと思えます。

●なにげなく「オイ」と呼び呼ばれることを受入れている一つの例から、暮らしの中で何気なく言っていることが、差別につながっているんだなあと思いました。食事のとき、食卓に座ると「オイご飯」と言い、ご飯を入れてもらおうと、待たずに先に食べてしまつて席を立つことが多く、妻からは「せいのない人やなあ」とよく言われています。今後は、食事を一緒に終わるよう心がけたいと思っています。



新着ビデオの紹介

●「こころに咲く花」



今、学校や地域でのいじめ、職場でのパワハラ、セクハラが人権侵害として大きな社会問題となっています。

いじめは決して他人事ではなく、「私」「自分」の問題なのです。それは、いじめに関して私たちは皆、いずれかの形で加害者、被害者、観衆、傍観者の中になると言われているからです。

そのことを自覚しているか、いないかで状況は大きく変わってきます。

このドラマでは、いじめ構造の中で多数を占める傍観者、観衆たちが一歩踏み出して、勇気をもって声を発すれば、必ずいじめの解決につながるということを訴えかけています。



第1期加東市民人権講座修了者名簿

加東市民人権講座の3回全てに出席されたみなさんです。

学習成果を地域や家庭、職場に還元していただけたらと思います。

(順不同・敬称略)

【社一区】	長井英之	中尾克彦	亀野義宏	【平木】	吉田幸代	中山睦子	
【社二区】	上月伸二	石井好則		【光明寺】	小幡茂雄	井上真吾	
【社四区】	高橋 誠	柴垣雅巳	植原直美	【上滝野】	藤尾留美子	黒崎みどり	中村敏一
	宮田明子	秋原ひさみ		【下滝野】	谷口雪美	芝野康次郎	田中充裕
【社五区】	平川延洋	島崎 武	大橋正通		阿江利規	阿江英代	
【松尾】	小林良樹	藤本みえ子		【河高】	大久保裕一	丸山光広	平山 修
【出水】	大橋新七郎	藤井信一		【高岡】	中塚昭広	藤川博喜	長曾我部輝夫
【田中】	堀内芳典				白井恭子		
【貝原】	吉田智恵美			【新町】	時本真由美	大久保久代	堀江康夫
【野村】	宮崎みどり	石原千賀子	壺井美恵子		竹内 進	田中 聡 星 守	服部二郎
【西垂水】	上月嘉和	上月正三		【北野】	堀井百合子	梶原啓子	白井 武
【窪田】	中西省三	西村まさ子			森本勝久		
【家原】	田村孝夫	丸山浩平		【穂積】	神戸典世	末広ゆかり	神戸典章
【梶原】	酒井喜代子	安藤さく江		【稻尾】	竹内善範	白井範明	藤川正幸
【沢部】	長井成年	井上富男		【曾我】	西口利男	竹内正美	竹内 薫
【福吉】	小林公毅			【多井田】	畑谷健二	山崎敏行	
【上田】	時本俊英	壺井和子	安田ミツル	【桜台】	西之園知行		
【大門】	蓬萊英隆			【天神】	都倉明郎	小林真理子	玉田安代
【西古瀬】	友藤直行	岸本偉知子	賀内あゆみ		大杉一馬	藤原輝彦	
【中古瀬】	小林和子	小林くみ子		【捨鹿谷】	藤田武史		
【東古瀬】	小紫初男	小紫正和		【黒谷】	藤原伸樹		
【屋度】	服部勝子			【古家】	岸本孝司		
【東実】	山口重昭	小林敏郎		【常田】	南 和夫		
【畑】	田中隆文			【秋津台】	宮永康昌		
【廻渕】	塩山末男			【永福台】	時本日出見		
【池之内】	岡本克代			【横谷】	岩崎吉泰	尾谷吉一	
【上久米】	伊藤嘉子	藤井さとみ	岸本真由美	【森】	柳 隆之	的場浩之	
【下久米】	橋本 剛	河村明彦		【南山】	岡本さゆみ	宮崎英男	山口公人
【久米】	高橋隆子			【岡本】	藤井清隆	西尾 豊	西尾直美
【上三草】	西山雅博	阿倉敬次	西山英和	【岩屋】	藤井直幸		
【下三草】	上月 實	根山 進		【森尾】	藤浦千里	廣岡五郎	
【木梨】	石井義春	白井秀樹	藤本 衛	【新定】	山本陽彦	岸田佳代子	土肥雅美
【藤田】	石古あい	村上勝志		【吉井】	岸本いつみ	岸本弘美	藤原由香
【山口】	西山勝志			【栄枝】	森 裕市	藤原健太郎	
【馬瀬】	大前一彦			【厚利】	小林一成	佐之瀬恭嗣	
【牧野】	西山英希			【松沢】	藤原義幸	藤原宏文	
【吉馬】	藤原繁生	長谷川正樹		【蔵谷】	勝田明美	近藤睦子	
【やしろ台】	永田省三			【藪】	安井寿明	藤井恒人	
【上鴨川】	西山一彰	大畑四郎		【嬉野東】	立岡高昭	庄治義彦	

人権を考える市民のつどい

1月20日に、社福祉センターで、「人権を考える市民のつどい」を開催しました。はじめに、「多文化共生交流ステージ」として、兵庫教育大学留学生在がフィリピンの踊りとインドネシアの歌を披露されました。

人権弁論では、市内4中学校の生徒がそれぞれの思いをこめた作文を発表しました。そして、市内の三地区から創意工夫をこらした住民学習の報告が行われました。

最後に、兵庫県人権教育研究協議会事務局長の井上弘和さんに「これからの人権尊重のひと・まちづくり」と題して、総括助言をいただきました。

【北野地区 実践報告】 (発表者 森本勝久さん)

- (1) 多様なふれあい活動の推進・・・3つの「わ」とは、「和」「輪」「話」。ふれあい喫茶やグラウンドゴルフ等、旧住民と新住民、新住民同士等の交流を図る。
- (2) 人権移動研修の実施
生野銀山へ地区役員と訪問し、銀山内の過酷な労働状況についてボランティアガイドの説明を受けた。

ふれあい活動を通じて、お互いの立場を知ることにより、小学生から高齢者まで、新旧住民の方々が協力・助け合う精神が育まれたと思う。



【横谷地区 実践報告】 (発表者 高尾洋宜さん)

- (1) 地域のふれあい活動 (8月)
消防団、地区役員、婦人会、老人会等の協力による「地藏盆のお祭り」
- (2) 家庭学習 (9月)
加東市人権パンフレット「みんなの願いがかなうまちに」の内容・利用方法を説明し、家庭内学習を依頼。
- (3) 地域ふれあい講演会 (10月)
ダイアン・オレットさん「日本人の気づかない日本のすばらしさ」

一人でも多くの方に地区別学習会に参加していただき、人権学習を身近なものとして感じて欲しいという思いから、落語を交えた人権教育に取り組んできた。地区学習は、単位は小さいけれども、自由な発想をもっていろんなチャレンジができるものである。



【上田地区 実践報告】 (発表者 安田ミツルさん)

- (1) 敬老会でミニ人権講座
「いきいき体操とトーク」
講師 東条西小学校長 廣畑貞一さん
- (2) 5地区共催人権講演会
「心の庭に花を咲かせる」
講師 福知山市観音寺住職 小藪実英さん
- (3) 三世代交流餅つき大会 (文化の継承)



マナー化の克服と参加者の拡大をめざして、2～3年のサイクルで変化のある住民学習にしようと、他地区との共催で人権講演会を実施した。「地域の方々に来てもらう学習」と「集まりの中のでかける学習」などの工夫をしている。

その一方で、同和問題を風化させないための取組が必要である。

心あったかいフォーラム

「8月10日 ハートの日」

昨年8月10日、「心あったかいフォーラム」を東条文化会館コスミックホールで開催しました。



<ESPERANZA/えすぺらんさ>さん



オープニング



「滝呼ソーラン」のみなさん

表彰式



人権啓発ポスター・短作文の優秀作品表彰式

オープニングは、「滝呼ソーラン」のみなさんによるよさこい踊りでした。幅広い年代のメンバーが力いっぱい踊りを披露され、熱気が伝わってきました。

また、児童生徒のみなさんを対象にした、「人権文化をすすめる市民運動」の人権啓発ポスター・短作文の優秀作品の表彰式が行われました。

講演会は、<ESPERANZA/えすぺらんさ>さんによる、トーク&コンサート「愛という名の奇跡—難病・ひきこもりを乗り越えて“光のステージ”へ—」でした。

「えすぺらんさ」は、奥田良子さん（フルート&オカリナ）が、自身の闘病と再出発を描いた「愛という名の奇跡」としてフジテレビ「奇跡体験アンビリバボー」で放映されたのを機に、心身を支え続けてくれた夫の奥田勝彦さん（ベーシスト）と結成したコンビです。

挫折から社会復帰に至るまでの「出会い」「励まし」「自分一人で生きているのではないこと」など、自分の経験をコンサートの中で語り、その経験談は会場の観客の共感呼びました。中でも、オカリナ演奏の穏やかな安らぐ音色が好評でした。

人権と福祉のまちづくりフェスティバル

オープニング



昨年12月2日、「人権と福祉のまちづくりフェスティバル」を滝野文化会館で開催しました。

加東市高齢者大学東条教室
オカリナクラブのみなさん

体験発表



「精神保健福祉ボランティアの体験をとおして」
松本みつ子さん



歌「希望」 よしきさん

オープニングは、加東市高齢者大学東条教室オカリナクラブのオカリナ演奏でした。体験発表では、松本みつ子さんが精神保健福祉ボランティアの体験談を、よしきさんが心の病とうまく付き合いながら社会復帰を目指して、自作の歌を発表されました。

講演は、作家・絵本作家の濱宮郷詞はまみやさとしさんによる「困難を乗り越え強く生きる～人と人 助け合う心、人間として最も大切なこと～」でした。寝たきりの重度障害者ながら「不可能を可能にする努力」とパワフルに生きる姿に、会場にいる私たちは「勇気と希望」をもらいました。

《心あったかいフォーラム会場のみなさんの感想》

- 難病をかかえながら精一杯生きている姿から勇気もらい、すばらしい演奏とトークにこちらの心もあたたかくなりました。
- 難病の人の、「病気の事をいろんな人が知ってくれたら自分達は生きやすくなる」という言葉が心に残りました。
- 今まで人権問題など多くの話を聞いたり、研修やビデオで学んだりしてきた。60歳を超え、夢や目標について改めて聞かれると、「おや?」と思った。昨今、感動することが少ない自分にとって、心身ともに心地よい感動を得た。

地獄だった。悔しくて涙が出、ふくこともできず、耳にたまって頭の後ろに流れてまくらが濡れた。会場に来られている先生に言いたい。車イスの子には運動会に出してあげて欲しい。

子どもたちに行き詰った時には、物の見方を変えるということを教えてあげて欲しい。

中学3年生の女子から、「障害者の方を見ると近づくことができない、怖くて。だけど、濱宮さんの話を聞いて障害者の方の面倒を見るのではなく、少し手を貸すだけだということが分かった。障害者の方ができないところをやればいいということを知って、怖くなくなった。」という手紙をもらった。

障害者の面倒を見るのではなく、できないところをお手伝いするということ。

高校3年生のとき、先生から学校どうすると聞いてきた。先生に聞いた。どうして今の状態で卒業できるのか。私はきちんと勉強して卒業したいと言った。留年して車イスで学校に通った。後輩が鉛筆やノートを出してくれ、授業が終わるとしまってくれる。良い仲間恵まれて高校生活が送れた。

しかし、進路が近くなってきたとき、自分で考えた。自分が生きることはみんなに迷惑がかり…。自殺しようと思った。そんな時、弟のようにかわいがっていた16歳の少年が自殺をした。皆さんも一度ぐらい自殺しようと思ったことがあると思う。

自分の命は自分のものですが、生まれてきた以上、生きる義務がある。今は単なる通過点です。終着ではない。今を一步、一步進んでほしい。苦しい時は物の見方を変えてみるのが大事である。

就職で悩んでいたとき、先生にコンピューター

受かってしまったが、その作業所では、自分のことは自分でできる人でないと入れないと言われた。

まず通うために車の免許に挑戦した。免許はとれたけど、不測の事態のことを考えて運転することはあきらめた。そこで、作業所まで送迎してくれるボランティアを探すことにした。

嘆くために過去を振り返るな。悔やむために過去を振り返るな。

振り返る時は、反省するとき、懐かしむために昨日を振り返る。くよくよしていたら、前に進めない。真っ暗な時に考えてはだめ。反省した時に振り返って、前を向いたら失敗は繰り返さない。昨日 大切、今日 大切、明日2倍に生きなさい。

私は生きています。トイレも、風呂も自分ではできません。それでも一生懸命生きています。

みなさんの前には山があります。どんなに高く険しい山か分からない、それでも一步一步登って下さい。途中苦しくて止めようと思う自分がいる、そんな自分に負けないでください。一步一步登って下さい。必ず頂上に着きます。そこから必ず美しい景色が見えます。

自分に負けないこと。私はぼろぼろになるまで前に向かって生きていきます。その姿を子どもたちに見せたい。子どもたちにお父さんはがんばったよと言ってもらいたい。子どもに私のお父さん、お母さんは頑張ったよと言ってもらいたい。



《会場のみなさんの感想》

- 松本みつ子さんの体験談を聞いて、やさしい町づくりは自分からやさしい心でないといけないなと感じました。
- よしきさんの歌、心が伝わってきてよかった。上手でしたよ。
- 濱宮さんの講演は、障害を正面から受け止めて自分らしく明るく生きてこられたことが、よくわかりました。中学生にぜひ聞かせてあげたいと思いました。

人権と福祉のまちづくりフェスティバル 講演

演題 「困難を乗り越え強く生きる
～人と人 助け合う心、
人間として最も大切なこと～」

講師 作家・絵本作家 はまみや さとし 濱宮 郷詞さん



《講演要旨》

私は、立とうとする感覚はあるけど、足が動かない。たたいても痛くない。包丁を刺しても痛くない。背もたれがないと倒れてしまう。万歳ができない。手の指も動かない。

5歳の時父親が死にました。父親は、ご飯を食べているときに、好き嫌いをすると怒った。運動会へは必ず見にきてくれた。私が5歳の時、父親は36歳。出勤の準備をしていた。突然「あばばばばば……。」声ともなとも。振り向くと父親はゆっくりと倒れた。びっくりしてすぐさま母親を呼んできて二人で……。母親は近くの医者呼びに走った。私一人そばについて見ていた。父親は天上に向かってつばを吐いていた。おそらく泡を吹いていたんだと思う。

医者が来て「もう無理だろう。」と言っているのが聞こえたけど、一応父親は救急車に乗って病院へ行った。病室には入れてもらえず、廊下でひとり待っていた。6月7日でした。3つ上の姉も来て2人で立ったり、座ったりしていると、看護師が「おいで」と言って中へ入れてくれた。母親は真っ赤な顔をして泣いていた。目が腫れていた。看護師さんが「お父さん、きれいにしようね」って、そして次に「お水をあげようね」と言われて、そっとぬらしてあげたことを思い出す。

父親が棺に入れられているのを見て、私一人がはしゃいでいた。大勢の人が来てくれたので嬉しかった。霊柩車が来て、火葬場に着いた。そこで、異様な雰囲気を感じた。父親が中へ入れられたとき、直感した。お父さんが居なくなると。その時、はじめて泣き叫んだ。「ぼくのお父さんを出してよ。」と。それが父親との一番の思い出。

それから母子家庭となり母親の働く後姿を見て育った。小学5年生の時、サッカー少年団へ入っ

た。6年生の時、サッカーチームでカッコいいジャージを作り、私も欲しいと言った。母親が1つのピンを持ってきて、「これで買いな。」と言ってくれた。ピンを開けて1円、5円、10円を数えた。「やった、買える。」と思ったけど、やっぱりピンに戻し、母親に返した。昼、夜なしに働いている母親のお金だと思ったら使えなかった。

中学3年生の頃、非行にはしる子がいた。私も母子家庭なので誘われることがあったけど、なぜか、非行にはしることができなかった。いっしょうけんめい働く母親を見て、この人を苦しめてはいけないと思った。

講演会場で、「皆さんは自分の後姿を子どもに見せられますか。」と聞く。「胸をはって見せられますか。」と聞く。講演で学校へ行くと、子どもたちに話す。お父さん、お母さんの後姿を一度でいいから見てあげて欲しいと。お父さん、お母さんが一生懸命がんばるのは、みんなに美味しいもの、きれいな服を着せてあげたいと思ってがんばっているのだよと。

皆さんは胸をはって自分の後姿を子どもに見せられますか。

子どものしつけは親の姿が一番です。

ある中学生の女の子から、私のお母さん、私より早く起きて、ごはんをつくってくれる。なぜ、こんなお母さんと喧嘩したんだろう。もうお母さんと喧嘩するのは止めようという手紙をもらった。

私は中学1年生から棒高跳びを始めた。サッカーもやっていた。高校でも棒高跳びをやった。

棒高跳びのインターハイで、棒が垂直に上らず地面に落ちた。すぐさま救急車で病院に運ばれた。医者が足に針を刺すけど痛くなかった。刷毛でさわっても感じなかった。目の玉しか動かなかった。

男女共同参画プランを策定します

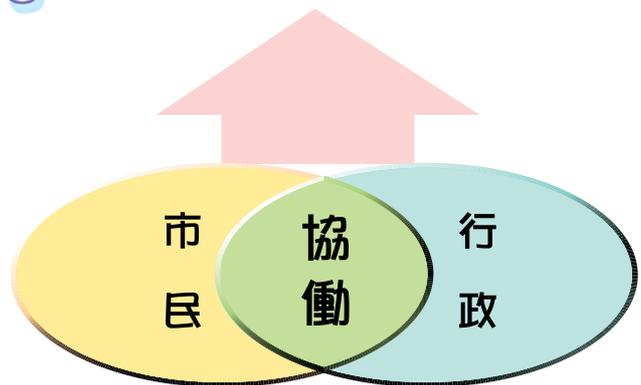
加東市では、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現のため「加東市男女共同参画プラン」を策定します。

このプランは、市の男女共同参画の取り組みの指針となるもので、加東市の実態を把握して地域的課題、重要課題を明らかにし、課題ごとに必要な個別施策を検討していきます。

また、策定委員会、庁内プロジェクトチーム、パブリック・コメント等の意見を反映しながら、男女共同参画プランを作成します。

策定委員会は、学識経験者や区長会をはじめとする市民組織の代表、公募委員4名を含む15名で構成されています。

男女共同参画プランの策定



第1回策定委員会の開催 (1月21日)

委員に委嘱状が交付され、委員長、副委員長を選出しました。

委員長 兵庫教育大学教授 田中亨胤さん

副委員長 嬉野台生涯教育センター婦人家庭課長 中村和子さん

協議内容

- 会議の運営について
- 男女共同参画プランの策定方針について
- 市民アンケート調査の実施について



委員会は公開されています

男女共同参画プラン策定委員会は、公開で行われていますので、関心のある方は、ぜひ傍聴にお越しください。

また、会議の内容はHPで公開します。

(HPアドレス <http://www.city.kato.lg.jp/>)

第2回 策定委員会

- 日 時 3月17日(月) 15:00～17:00
- 場 所 加東市役所 滝野庁舎 第3会議室(2階)
- 傍聴受付 当日の14:30～14:50まで
- 定 員 先着5名
- 対 象 市内在住の方



シリーズ2 男女共同参画ってなに？

男女共同参画についてシリーズでお知らせします。

男女共同参画社会が実現すると
くらしはこう変わります！

みんなでめざしたいね！

家庭では・・・

- 家事、子育て、介護などを家族のみんなが分担し、喜びも苦勞も分かち合っています。
- お互いが協力することで絆の強い家族を作っています。
- 家族みんなが笑顔で、家族の夢を支えあい、ゆとりのある毎日を過しています。



地域では・・・

- 社会の慣習やしきたりが見直され、一人ひとりの考え方や行動が尊重され、男女がともに地域活動に参加しています。
- 地域活動を通して、地域の間関係が密接になり、誰もが地域の一員として、自分のまちの住み良さを実感しています。

職場では・・・

- 働きやすい職場が増えて、男女がともにゆとりと充実感を持って、いきいきと働いています。
- 募集・採用、昇進、賃金などにおける男女格差が解消され、個性、能力、意欲などが十分に発揮されています。
- 管理職などの方針決定の場への女性の参画が進み、生き生きと活躍しています。



学校では・・・

- 発達段階に応じて、友だちや家族との間関係のあり方を学ぶとともに、相互に人格を尊重することの大切さを学んでいます。
- 男女という性別にとらわれず、自分らしさを大切にした自尊心のある子どもたちが育っています。
- 個人の自主性に基づく進学、就職などの進路選択がなされています。



「家族にできること」

社中学校

2年 ^{たなか}田中 ^{りゅうた}隆太さん

80歳になるぼくの祖父は、3年前に脳梗塞で倒れるまでは元気に農作業や自動車の運転をしていました。しかし突然、脳梗塞で倒れ、1日のほとんどをベッドで寝て過ごす生活となりました。なんども入退院を繰り返しているうちに症状も悪化していきました。脳梗塞になって寝たきりの祖父を見て、このままずっと寝たきりで、昔の元気な祖父の姿はもう見れなくなるのではとすごく心配になりました。

さらには、認知症の症状がたびたび出るようになりました。認知症の症状がひどい時は、自分の家がわからなくなったり、いままで一緒に暮してきた家族の名前を忘れてしまうこともありました。今も祖父はその症状が治らないままベッドの上で生活しています。

ぼくのことをわからなくなってしまったときは、すごくショックでした。このままぼくのことを思い出せないのではと、不安になりました。

寝たきりのまま、自分では動くことができない祖父には介護が必要です。ベッドから移動して、お風呂やトイレ、着替えなどをするのはとても大変で家族の力が必要となります。でも家族がいつでも家に居られるとは限りません。ぼくの両親はどちらも昼間は仕事にでかけるので家に残された、祖母が1人で祖父のお世話をしています。トイレや着替えなど祖母1人で祖父を持ち上げるのはかなり難しいことです。一言で介護といっても毎日のことです。本当に大変なことです。祖父のために家族みんなで、協力し介護をしています。最初は介護の方法がうまくできず苦労していましたが、介護を助けてもらうためにデイサービスを利用するようになりました。

デイサービスでは、その人にあたりハビリをしてもらえます。そして、家では入浴が困難な人のために入浴をしてくれるサービスもあります。そのほか食事や大勢の人達と楽しく過ごすことができます。こういったサービスを利用すると家族の

負担が減って祖父の介護にとっても役立っていると思います。また、介護する家族の悩みを聞いてもらったり、病気の人がどういう思いでいるか教えてもらうことができます。

ぼくは祖父のために何をしてあげればいいのかわかりませんでした。祖父によく遊んでもらっていた幼い頃、いろいろな所に連れて行ってもらいました。そのときに素直な気持ちで、相手を大切にすることを教えられました。祖父の気持ちを考えたとき、毎日がどんな思いでベッドに寝ているのかと思うと、自分にもできることがあると思いました。それは、毎日1人寂しくベッドで寝ている祖父の話し相手になってあげることが、今の自分にできることだと思いました。

それに、ぼくや家族が話しかけることで、祖父も喜んでくれます。家族が毎日話しかけてあげるとは、デイサービスや他の介護のサービスにもできない、家族にしかできない介護だと思います。

たとえ病気で寝たきりだとしてもこれからもずっと長生きしてほしいです。

これからも祖父の介護の手伝いをし、今までゆっくり話ができなかった分たくさん話しをしたいと思います。

高齢化が進み介護施設やサービスも充実してきました。しかし、充実してきた分家族のかかわりが少なくなっていると思います。生活の介護も大切ですが、毎日が笑顔で過ごすことできる心の介護こそが最も大切だと思います。

家族にしかできない心の介護を大切に、早く昔の元気な祖父にもどってほしいと思っています。



『大学祭で出会った韓国人留学生』

兵庫教育大学附属中学校
2年 森脇 穂加さん



みなさんは、留学生と友達になった事はありませんか。

私は一昨年兵教大で行われた大学祭に友達と行きました。

その時に、「秋のソナタ」という韓国から来た留学生が出していたお店がありました。そこでは、韓国料理のトッポギなどを販売していました。

とてもおいしかったです。だから、何回もお店に行きました。それで、お店で流していた韓国の歌手の曲を、たまたま知っていて、留学生の人達と話したりしました。

そのうちに、だんだん仲良くなって、帰る少し前に、一人の留学生とメールアドレスを交換しました。

家に帰ってから、その人からメールが来ていて、「今日は、ありがとう。」と書いてありました。

私にとっては、初めてちがう国の人とメールをしたりして、とっても嬉しかったです。それから、たくさんメールをして色々な話をしました。

冬休み前にメールをしたとき、「もうすぐ、冬休みですね。すごく楽しみです。」と書いて送ると、彼女は「休みなのは、嬉しいけど、とてもさみしい。」と書いていました。

そのとき私は、なぜさみしいのかわからなくて、なぜなのかを聞くと、「自分たちとはちがう人ばかりで、一人でいる時間が多いから。」と言ってきました。

確かに留学して、大学の建物に住んでいるからといって、みんなと考えや習慣がちがうと、やっぱり浮いてしまうものだと思います。

もし私がこういう立場になると、同じ気持ちになると思いました。

私と彼女が出会ったのは10月で、彼女は去年の2月に留学を終えて、韓国に帰りました。

彼女が帰る少し前に、手紙をもらいました。と

てもきれいな日本語で、とっても嬉しかったです。内容には、1年間の留学期間がすごく長く感じ、いやになることもたくさんあったという様な事が書かれていました。でも、他の留学生や友達が支えてくれたから、とても楽しかったとも、書かれていました。

私は、日本にいる間に、いろいろな体験や思いをした彼女が、楽しかったと書いてくれて、本当にうれしかったです。

知り合えて、仲良くなれて良かったです。

たとえ生まれた国がちがっているからと言って、その人をさけたり、偏見を持つのは、間違っていると思います。

実際私は韓国が好きです。

映画を観たり、音楽を聴いたりします。

いろんな事を知るのが楽しいです。

ほとんどの人は、韓国と聞くとすぐに、「韓流」と思い浮かべます。それで深入りしようとはしません。だけど、私は彼女と知り合って、韓国語やたくさんの文化を教えてもらいました。今でも、楽しいから大好きです。

私的には、彼女が知らなかった日本の良いところや悪いところを見つけた反面、実際に行ったことはないけど、私も韓国のいろんなところを知ることができて、良かったです。

こういう事を学ぶ機会は少ないかもしれないけど、こんな風を感じる事ができて、良かったです。

留学生の彼女を通して、国のちがいで差別の感じ方が、変わったような気がしました。





「笑顔をつくる私の味噌汁」

滝野中学校

3年 坂口 さかくち あいさん

「おじいちゃんなんか嫌いや。」私は、思わずこんな言葉を祖父にぶつけてしまいました。一緒に暮していることで、遠慮がなくなり、意見が食い違い、喧嘩になってしまったのです。そのあと祖父は、寂しそうな表情を浮かべるだけで何も言いませんでした。私も素直になれずに意地を張ってしまい誤ることもできませんでした。

そんなことがあってから数日たったある日、私が学校から戻ると近所のおばさんが「あいちゃん、おじいちゃんが大変や」とあわてて私に駆け寄ってきました。おばさんは「おじいちゃんが倒れて病院に運ばれたんよ。」と知らせてくれました。私は何が何だか全く分からず、ただただ驚くばかりでした。「あんなに元気なおじいちゃんがどうして・・・うそや、ぜったいにうそや」祈るような気持ちで心の中で何度も何度も繰り返しました。

祖父は心筋梗塞で倒れたのでした。心筋梗塞とは、心臓の冠状動脈の血栓などによる閉塞や急激な血流の減少により、酸素と栄養の供給が止まり、心臓が壊死してしまう病態のことで、激しい胸の痛みやショック状態などを伴うそうです。幸い処置が速かったので、祖父は命を取り留めました。それから少しずつ病状は良くなり、自分で歩けるようにまで回復しました。

不意に私たち家族を襲ったこの出来事から、私は家族について改めて考えるようになりました。祖父と祖母と父と母、そして2人の妹と私の七人家族、みんなそろってご飯を食べ、テレビを見て、他愛もない話をする、いつも何気なくしていることが何だかとてもかけがえのない大切なことのように感じられるようになりました。けんかばかりしていたけれど、そんな祖父に、もしものことがあったら・・・と思うと、私にとって祖父がどれほど大切な存在なのかがよくわかりました。また、祖父の看病をしながら、毎日家族のために食事の用意をし、洗濯をし、妹たちの面倒を見、とても忙しい生活を送っている母の姿に、感謝の気持ちが湧いてきました。どんなに忙しくても笑顔を絶やさず家族のために頑張る母のためにも、私に何かできることはないか、食事の用意で何か一品でも私が作れば、きっと忙しい母の手助けになると

考えるようになりました。そして思いついたのが家族みんなのために毎日おみそ汁を作ることでした。

なぜ、「おみそ汁」なのかということ、理由の1つは、家族みんながいつも好んで食べているということです。我が家の定番メニューといったところでしょうか。2つ目には、野菜がたっぷりと食べられて体に良いと思ったからです。祖父はもちろんのこと、祖母や健康が気になる父のためにも、体に優しく、おいしいおみそ汁を作りたいと思ったのです。

それから私は、見よう見まねで台所に立ちはじめました。夕食の時、食卓に上がったおみそ汁の前に、家族みんなの反応をドキドキしながら見守っていましたが、口々に「おいしい」と言ってくれて、みんなから笑顔がこぼれました。私はとてもうれしくて、作る手間などどこかへ飛んでいてしまいました。祖父が元気になってからも、祖父と祖母が家庭菜園で丹誠込めて作った野菜を使って作りました。そして、今も母にアドバイスをもらって楽しみながら作っています。

祖父の病気がきっかけで、私は家族について考えるようになりました。そして家族の健康を願う気持ちと母への感謝を伝えたいという思いで、とてもささやかですが、自分にできることを実行してみました。するとこれまで以上に家族との会話が増え、いっそう絆が深まったように感じます。「おじいちゃんなんか嫌いや。」と、これまでのように感情的になったり、一方的な見方で物事を判断したり、うまく気持ちが伝わらずに喧嘩をしてしまったりすることが少なくなり、お互いを思いやり、助け合えるようになったと感じています。

みなさんは、家族とどのくらい言葉を交わしていますか？家族のために何かできることをしていますか？いっしょにすることが当たり前で、普段は改めて考える機会のない家族や友達、あるいは周りにいる人のことをみんなが考えるようになれば、もっともっと絆が深まり、あたたかい社会になっていくのではないかと思います。

わたしは、伝えても伝えきれない感謝の気持ちを、これからも手作りのおみそ汁で家族のみんなに伝えていきます。みんなの笑顔が私の宝物だから・・・。

「共に生きる社会のために」

東条中学校
3年 田中 葵さん



みなさんは、障害のある方を見かけた時、どう思われますか？余り関わりたくないな、と思ったことはありませんか？

私がなぜ障害のある方のことをテーマにしたかという、最近テレビの速報やドラマで障害者の方の特集をいくつか見たのがきっかけです。その中でも特に、ある少年のドラマが心に深く残りました。ドラマにとりあげられていた男の子は、脳性まひという病気で脳がだんだん悪化していき、そのせいで体が不自由になったり言葉さえともに話すことができなくなるのです。この男の子は、自分が長く生きられないことを知りながら、しかも障害をかかえながら、それでもとても明るく元気で家族や周りの人達が落ち込んでいるとはげまし笑顔にさせるのです。私は、これを見てとても感動しました。私ならいつ死ぬか分からないのに、他の人をはげますなんてとても出来ないと思います。まして、毎日明るく笑顔で過ごすなんてことは無理でしょう。生きる希望をなくし、生きる意味が分からなくなり、絶望の中泣き続ける毎日になると思います。

他にも障害のある方は、世界中にたくさんおられます。生まれつき障害のある方、昨日まで元気だったのに突然病気になったり、事故に遭ったりして、障害を背負うことになった方、戦争で体や心に傷跡が残り被害を負った方など、他にもさまざまな事情でさまざまな障害のある方がいるのです。

障害者の方達は、健康な人に比べてなんらかのハンディを背負って生きておられます。ですから日常生活にもたくさんの支障が出ると思います。でも、ほとんどの方が前向きに障害と向き合い、明るく生きておられるのではないのでしょうか。私はそういう姿を見て、ちょっとのことでくじけたり、

なげだしたりしてはダメだなあ、と思いました。私と同じ考えをする人もいると思いますが、中には笑ったり、障害者の方が助けを求めているも見えて見ぬふりをしたりする人がいます。私はどうしてこんなことをするのか、ととても思います。私達はみんな同じ人間で、みんな平等に生きる権利を持っています。それなのに障害者だから・・・と関わらないようにするのは、おかしいと思います。困っている人がいたら真っ先に助けるべきだと思います。「誰かがやってくれる。」と言う気持ちを捨て、周りの雰囲気にならなず、まず自分から実行することが大切なのではないのでしょうか。そうすることで障害者の方への関心が深まり、障害者の方にとって過ごしやすい環境をつくることできると思います。自分から実行するということは、相手のためにもなるし、自分のためにもなるのです。

これから高齢化が進む中でどんどん障害のある方が増えてくると思います。だからこそ、共に生きる社会を目指して、誰もが障害者の方に向き合い、困っている時はすぐ助けてあげられるようになればいいなあと思います。

私は、障害者の方が困っていたら「どうしたのですか？」と、手をさしのべられる人間になりたいです。



人権トピックス

こころあったかまちづくり書道展

市内の小・中学生と一般の方々を対象に、人権に関するメッセージの書道作品を募集したところ、たくさんの応募がありました。

どの作品も秀作・力作ばかりで、観ていて心があつたかくなりました。

作品は、これからの人権尊重のまちづくりに役立てていきたいと思っています。



やしろショッピングパークBioで展示(2/5~2/14)



盲導犬育成のための募金

ありがとうございました



昨年8月に、市内の小学3年生から中学3年生を対象に盲導犬見学学習会を実施しました。その時に、参加したみなさんから盲導犬育成のためにと13,459円の募金をいただきました。さっそく社会福祉法人兵庫盲導犬協会に寄付しました。みなさんありがとうございました。

盲導犬一頭育成するのに、300万円の費用が要ると言われています。

現在は、滝野庁舎内に募金箱を設置しています。引き続き、みなさんの善意をお寄せ願います。

盲導犬見学会の様子



PR犬ノエル号



編集後記

小学4年生の子どもが宿題でなぞかけを考えていました。「お母さんも考えて」と言われて思い出したことがあります。

「喫茶店とかけて、人権学習ととく」その心は、「まずは、自ら(水から)。」

5年間、この仕事に携わってきました。自分の生き方を問われる職場であったと思います。これからも、気を引き締めて、地に足をつけしっかりと自分の生き方を貫いていきたいと思っています。

発行

加東市教育委員会
加東市人権・同和教育研究協議会

〒679-0292
兵庫県加東市下滝野1269-2
TEL 0795-4813598
FAX 0795-4815525